



No. '22-3

(No.110)

July. 2022

ISGG NEWSLETTER

伊東市善意通訳の会

C O N T E N T S

1.ユア・ヒット・パレード	会員	菊池善次郎	2
2.「みかんの花咲く丘」誕生のおはなし	会員	小西恒男	5
3.英語とのかかわりあい	新会員	山本洋介	9

【新会員紹介】

加茂野まり子 14

【事務局便り】 15

【編集後記】 16



Holly のお別れ会

ユア・ヒット・パレード



会員 菊池善次郎

古い話ですみません。1955 年（私高校 1 年生）、ラジオの文化放送で“ユア・ヒット・パレード (Your Hit Parade)” という人気歌謡番組が始まりました。外国映画のテーマ音楽を中心とした横文字のヒット曲を AM ラジオの電波に乗せて全国に流してくれる番組です。毎週日曜日夜 9 時半から 30 分間、当時、まだテレビが普及する前のこと、各家庭にテレビは無く、インターネットやスマホ、音楽プレーヤーなどその存在/出現さえも想像出来ない全く娯楽に乏しい時代です。映画と云えば私の場合東京まで出かけるか（日帰りできないので無理）、或いはバスで 1 時間かけて旧下田町まで出かけ、その映画館（2 館あった）で観るしかありませんでした。といっても観たい映画は上映まで半年か 1 年は待つ必要がありましたが。そんな時代、真空管ラジオで聴く落語、NHK のど自慢や『三つの歌』、大相撲中継、ドラマ、そして和洋音楽番組は大変な娯楽、楽しみ、幸せなひと時でした。

昭和 32（1957 年）私は大学受験勉強の真っ最中。ラジオ番組に夢中になっている訳にはいきませんが、この文化放送“ユア・ヒット・パレード”だけは勉強を止めて欠かさず聴きました。しばし休憩して頭をリフレッシュする為もありましたが、当時少なからず外国とか英語に興味を持っていたのでヒット曲のメロディーだけではなく英語の歌詞を覚えたり曲が作られた舞台や物語を想像する楽しみもあったからです。

当時どんな曲がヒットしていたのか？ 私の時代（“ユア・ヒット・パレード”は 20 年も続いた番組なので後半の方はよく知りません）何んと云っても『エデンの東（ヴィクター・ヤング楽団）』でした。長期にわたり連続 1 位の座を保っていました。

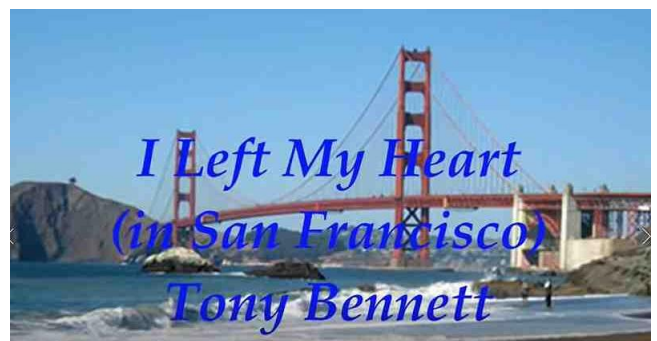
そして、順不同ですが、

『慕情』

『禁じられた遊び』

『ケ・セラ・セラ（ドリス・デイ）』

『煙が目にしみる（ザ・プラターズ）』



Golden Gate Bridge (San Francisco)

Youtube “思い出のサンフランシスコ” よりコピー

『 第三の男』

『テキサスの黄色いバラ（ミッチ・ミラー楽団）』

『リオ ブラボー（ライフルと愛馬）』

『オンリー・ユー（ザ・プラターズ）』

『バナナ・ボード（ハリー・ベラフォンテ）』

『砂に書いたラブレター（パット・ブーン）』

などなど。

更に、時代は前後しますが、

『シェルブールの雨傘』

『サウンド・オブ・ミュージック（ジュリー アンドリュース）』

『ウェストサイド物語』

『OK牧場の決闘（フランキーレイン）』

『想い出のサンフランシスコ（トニー ベネット）』

『霧のロンドブリッジ（ジョー・スタッフォード）』

『80 日間世界一周』

『グリーンフィールズ（ブラザース・フォア）』

・ ・ ・ ・ etc. , etc.



サウンド・オブ・ミュージックの舞台となった
ミラベル宮殿（ザルツブルグ）2007 年筆者撮影



映画“OK 牧場の決闘”（歌：フランキーレイン）
Youtube ヨリコピー

懐かしい名曲の数々！ 思わずハミングしたくなる曲がたくさんあります。おそらく私と同じ時代を経験した皆さんの中にも曲の名前を聞いただけで耳元にメロディーが聴こえてくる人がいらっしゃるのではと思います。永遠の名曲ですね。

時は流れ、1980 年代に入りCD（コンパクトディスク）なるものが世の中に出まわる様になりました。好きな音楽をラジオやテレビで放送されるのを待つこともなく何時でも好きなだけCDで聴くことが出来る様になりました。私も欲しいCDは殆ど買いCDプレーヤーで楽しんで来ました。

最近はいさし乍ら後期高齢者となって私の耳の機能がかなり衰えた感じで昔ほどいい曲をいい音で

楽しむことが出来なくなったのは残念です。

私、職業^{しょうがい}から現役中これらヒット曲で歌われた舞台や歌詞に登場する場所を訪れる機会に恵まれました。例えば、『♪思い出のサンフランシスコ』のアメリカ西岸サンフランシスコ、『♪霧のロンドンブリッジ』のロンドン、『♪シェルブールの雨傘』のフランスシェルブール、『♪第三の男』のラストシーンで出てくるオーストリアのウィーン中央墓地の並木道、『♪ローマの休日』のスペイン広場やトレビの泉、『♪ブルーハワイ』のワイキキビーチやダイヤモンドヘッド、『♪慕情』の香港、『♪ウェストサイド物語』のニューヨークマンハッタン、『♪八十日間世界一周』の舞台パリ/スエズ/インド/ビルマ等各国、などなどです。名曲を思い出しながら実際の現地を見てみるのも一興でした。まあ、結論的には名曲から描いたイメージとはかなり違うというのが半分以上、さすが名曲の通りすばらしい所だと思ったのが半分以下、と云ったところでしょうか。

一つ例を挙げます。『♪思い出のサンフランシスコ』。私の好きな曲の一つです。歌詞も素晴らしい。

カラオケでもよく歌いました。この歌（曲）はサンフランシスコからニューヨークに転居した2人の男性（作詞家と作曲家）が元住んでいたサンフランシスコへの郷愁を歌にしたものだと聞いています。

そんな話を知らなくてもこの歌は何か郷愁を誘う旋律と歌の文句ではないですか。トニーベネットの声を思い出しながら口ずさんで見てください。

私が初めてサンフランシスコを訪れたのは1963年23歳の時です。ニューヨーク航路の定期貨物船で寄港した時です。

サンフランシスコ湾の入り口の赤く空にそびえる巨大な橋、Golden Gate Bridge。その壮

♪ “思い出のサンフランシスコ”（歌詞）

I left my heart in San Francisco

High on a hill, it calls to me

To be where little cable cars

Climb halfway to the stars!

The morning fog may chill the air

I don't care!

大な美しさには驚愕・驚嘆・感激でした（日本にはまだ明石海峡大橋や関門大橋などがない時代）。船は橋に近いフィッシャーマンズワーフと云う岸壁に着岸しました。off duty 時間を利用し早速上陸。橋の袂^{たもと}まで坂を登ってから橋の歩道（片道 3Km 弱）を対岸まで歩いて往復しました。船からは高層ビル

の少ない（当時）街なみが見え、バックの小高い丘には白い住宅が立ち並び静かで美しい街という印象でした。サンフランシスコにはこれまで十数回行き cable car に乗ったり街を歩く機会も多くありましたが同地のいい印象は変わりません。“思い出のサンフランシスコ”を作詞・作曲した二人ならずともサンフランシスコは美しく静かで名曲通り郷愁を誘う様ないい街と云うのが私の印象です。

まだまだ色々他の名曲の現場の話がありますが、今回はこの辺で止めとします。

「みかんの花咲く丘」誕生のおはなし



会員 小西 恒男

毎年4月頃になると白い可憐な花を咲かせるみかんの花が伊東のあちこちで見られる。

「みかんの花が咲いている 思い出の道 丘の道 ……」 で始まる童謡『みかんの花咲く丘』は、作詞・加藤省吾、作曲・海沼実のコンビで作られ、国民的唱歌として誰にでも良く知られている。

この歌は伊東の歌であると言われており、伊東の人はそのことをよく知っている。この歌の誕生の経緯については、作詞者・加藤省吾の自叙伝『みかんの花咲く丘 わが人生』に紹介されている。

その中のいくつかをピックアップしてみたい。

昭和 21（1946）年、NHKが「空の劇場」という名前で、ラジオによる初めての2元放送を企画した。この企画は東京内幸町の本局と伊東の西国民学校（現在の伊東市立西小学校）を中継で結ぶ生放送で、実施日は8月25日となった。

2元放送の相手先が伊東の西小学校になった理由は述べられていないが、西小学校といえば、日本を代表する文学者であり医学者である「木下杢太郎」の通った伊東尋常高等小学校がその前身校に当たるので、彼の業績がNHKに何らかの影響を及ぼしたのではないかと推測される。

8月24日午前、加藤省吾は仕事の関係で川田家を訪問した。当時彼は音楽の月刊雑誌「ミュージック・ライフ」の編集長をしており、童謡歌手として人気のあった川田正子・孝子姉妹に取材に行った。取材を終えた時、海沼実氏と会うのである。川田家は当時「音羽ゆりかご会」の事務所であったことから、海沼氏は川田家に居候をしており、正確には海沼氏が加藤氏を待ち構えていたようである。（以下氏名の敬称略）

海沼から突然、緊急で童謡の作詞を依頼されるのである。それほど親しい間柄でないし、事情がよくわからない加藤はそのような作詞はできないと一度は頼みを断わった。

海沼は唐突な依頼の非を加藤に詫び、丁寧に事情を説明し、改めて作詞を依頼した。

それによると、『空の劇場』の番組で新しい童謡を作曲し、川田正子に歌わせることをNHKに頼まれており、明日（25日）伊東で披露しなければならないが、詞がないので曲が出来ない。大変困っているので、何とかお願いできないか」とのことであった。

まだ躊躇している加藤に決断を与えたのは珍しい「食べ物」であった。海沼から「赤飯があります。これを提供するので是非加藤さんの家族に食べてもらいたい。どうしても引き受けて欲しい」と迫られ、ついに承諾したそうである。

加藤はテーマにミカンを選んだ。彼は静岡県富士市の出身なので、ミカン畑は彼の故郷の田園風景になじみ深いものであった。

作詞は 12 時半から 1 時までの 30 分間で 3 番までを一気に書き上げ、今か今かと待ちわびた海沼に手渡した。海沼は待たせていた小学校 6 年生の川田正子（12 才）を連れて伊東に向かうわけである。ただその前に 1 つすることがあった。それは有楽町の GHQ（連合国総司令部）に立ち寄り、詞の検閲を受ける必要があった。検閲後ただちに東京駅に向かい、伊東行の列車に飛び乗った。

伊東までの車中の数時間が勝負の時である。彼は作曲に関して 1 つだけ信念を持っていた。それは曲を 3 拍子に仕上げることであった。彼は長い間イタリアオペラの研究を続けており、造詣が深く、3 拍子の曲に仕上げたいと考えていた。

列車内での作曲は、暫くはなかなか構想がまとまらなかったが、時間の経過とともに徐々に形をなし、熱海を過ぎて伊東線に入った頃には全体が見え、伊東駅に着く頃にやっと曲を完成させていた。

さあ、それからの作業が大変である。本日の宿舎である旅館「かにや聚楽」（現在のホテル聚楽）に入るやいなや、正子に曲のレッスンである。時間がないので、夕食もそこそこに就寝まで歌い方を指導した。時間を惜しんで正子と一緒に風呂に入り、指導したというエピソードもある。

8 月 25 日朝、海沼は正子を送り出した。海沼の気持ちは成功するというより、とにかく正子が無事に歌い終えてくれればよいと、それだけを祈っていたそうである。

ところが、西小学校の講堂から正子の歌声が電波に乗って全国津々浦々に届いた瞬間から、NHK に大変な反響が寄せられたそうである。「ミカンの花咲く丘」は大ヒットし、一世を風靡したのである。

義理で作詞を手がけた加藤省吾と、ノルマを果たすために作曲をした海沼実が、しかも短時間で作り上げられ、誰もヒットを期待しなかった曲 — このような経緯で作詞・作曲された歌が期待を裏切って（？）今や国民的唱歌として日本人に歌い継がれている。さらにこの曲で加藤省吾。海沼実の名前が不動の地位を占めることになる。

このような形で名曲「ミカンの花咲く丘」が生まれた訳である。まさに名曲誕生の秘話と言っても過言ではないと思われる。大変興味深い話である。

最後に、現在伊東にはこの「ミカンの花咲く丘」を顕彰する石碑が 2 基建てられている。

一つは市内岡の小高い丘の中腹に建つ「ホテル聚楽」の中庭、もう一つは宇佐美から亀石峠へ上がる県道（伊東—大仁線）沿いの見晴らしの良い場所に設置されている。

聚楽の歌碑は平成 4 年（1992）年 6 月に建立された。ホテルは海沼実と川田正子が宿泊した場所であり、「みかんの花咲く丘ホテル」として知られている

一方、宇佐美の歌碑は昭和 58 年 11 月、伊東観光協会の手によって建てられている。宇佐美地区はミカン園の多い所で、この歌のイメージに最も適した場所に置かれている。



ホテル聚楽の中庭に設置されている「みかんの花咲く丘」の歌碑 中庭から伊東の海が一望できる（平成 4 年建立）。

英語とのかかわりあい



新会員 山本 洋介

人それぞれ英語に関わる経緯はいろいろと思いますが、私のケースについて自己紹介を兼ねてお話をさせていただきます。

振り返ってみるに大きく二つの要因がありました。

ひとつは実家が神戸で貿易商であった事、それも輸出専門だったので家に招くお客といえば日本人は少なく、欧米豪からの取引先がほとんどでした。

中学に上がったある日、父から提案があり、すなわち家の中で父と話す時には英語に限るというものでした。大学生であった姉は喜んで受け入れて真面目にやっていたが私は英語を習いだしたばかりだしとてもついて行けることでは無くていつしか止めてしまいました。

そんなことで英語は専ら受験用という限られた範囲で学習していました。

大学に上がって初めての夏休みに帰郷した時、親が引越した先のエレベータでまるで妖精かと思ふほど美しい女の子と乗り合わせました。下りた階は同じでなんと彼女は隣家の日英ハーフの娘でありました。天与のチャンスかと勝手に思っていました。帰郷する度に会うだけの、隣のお兄ちゃんとしての付き合いでした。

翌々年彼女が上智の国際科に入学することに成り、東京での暮らしを心配する隣家の母親から隣人の安心感から東京で時々は付き合ってやって欲しいとのリクエストを受けました。

私は千葉大学の学生で工業デザインを学んでいて商品調査や美術展、イベントなど東京に来る機会も多く彼女のアッシー（足代わりの運転手）をやることの引き換えに英語をただで毎週土曜教えてもらう事

になりました。これが現在の英会話力の基礎になっています。

ある程度会話ができるようになり3回生の時に、五木寛之の”さらばモスクワ愚連隊”という小説に刺激を受け友人と欧州をデザインの勉強を兼ねてオートキャンプで回ることを計画しました。4回生の前半、半年をかけた大旅行なので大学は思い切って一年休学としました。

ソ連船で横浜を出港してナホトカにわたりハバロスクまでシベリア鉄道に乗りそこからモスクワまでは遠いので飛行機で行きます。

地図で見ればナホトカ-ハバロスク間はほんの僅かな距離ですが鉄道で2,3日も凍りつく原野を昼夜走り抜ける、空気が信じられないくらい澄んでいて星の形が確かに5 pointed と呼称される星型正五角形にみえて腑に落ちたのが強く記憶に残っています。

ハバロスクからモスクワまではガタガタの飛行機でまるで熊の様に大きく髭を生やしたスチュワーデスに驚かされましたが何とか無事に到着できました。

モスクワには4日滞在して鉄道でドイツのケルンまで向かいました。

当時は冷戦たけなわの頃でポーランドやベルリン国境を通過する時はまるで映画の一コマの様に厳しい警備態勢で夜中でも列車の外は小銃を抱えた兵士が取り囲み、客室には兵士が銃を構えて荷物検査に入ってくる訳です。

さんざん荷物をひっくり返して帰っていきましたが何より物を没収されなくてやれやれでした。

ケルンで中古車を購入し半年間にわたり西ヨーロッパを東西南北3万キロを走り回りました。何も世界を知らない若造が毎日、未知の文物や人々に遭遇する機会を得て、帰国時にはそれなりの度胸もついて随分成長したような自覚もありました。コミュニケーションも英語だけでは限界があることも実感し行く先々の言語をにわかで覚えて何とか暮らしていましたね。



タホ川を隔ててトレドを望む

大学を卒業してトヨタ自動車にデザイナーとして職を得ました。

この子供の頃からの夢であったカーデザイナーという職業が英語に関わる第二の大きな要因です。

在籍中にはありとあらゆる量産車種の外形デザインに携わりましたが当時は社内での頭数に極端な差も有ってエンジニアの声が圧倒的に強くデザイナーは少数民族で仕事はいつも妥協を強いられフラストレーションに苛まれる日々でした。

11 年も仕事をして商品は売れて会社の評価は得ても自身の会心の作が一つもないという事実には大きな焦りを感じていました。

ちょうど 1985 年仕事にキリが付いたのでイギリスの大学院大学である Royal College of Art の Vehicle Design 科に自費留学しました。

同級生は企業から派遣された社会人が多く、平均年齢はおおよそ 30 歳くらいでしたね。

学生は背景にある企業文化が異なっているし、審美的な面での嗜好も違いがあるのでそれは刺激的な毎日で勉強というより学生どおしの討論の方が多かったように思います。

そんな自然発生的な切磋琢磨の環境で物を発想する、具現化する自分自身のやり方を見つけていく日々で自分の人生の中でも最も有意義な機会だったと思っています。

また学校には世界中のメーカーからデザイン部長が人材探しに定期的に訪れます。

気に入った学生が見つければ奨学金のオファーもありますし引き抜きなんていうのは当然のことです。

私も地元のローバー社とフランスのプジョー社から就職のオファーを受けました。プジョーはパリ往復の航空券まで送ってきてやたら熱心でしたがフランス語はまるで話せる自信がなかったなので花のパリ生活は諦めてイギ



RCA 卒業式でのプレゼンテーション

リスの工業都市コベントリーでの生活を選びました。

どちらかと言えば子供の頃から古いイギリス車が趣味であったし将来自分自身で自動車を作るという大それた夢が有ったので、DIY で個人が車を製作し登録できるキットカーというシステムが認められているイギリスで生活することは大きなアドバンテージがありました。

就職先のローバー社はウエストミッドランド地方の Coventry という工業都市にあり、いわばイギリスのデトロイトみたいな地方都市です。

近郊の Warwick(ウォリック)という古く趣のある村に住んで生活は豊田市よりも快適で 4 年間暮らしましたがミッドランド特有のイギリス的な天候にはちょっと気が滅入りがちで南海岸 Brighton の近郊にある大手の自動車設計コンサルタント会社から誘いを受けたのを好機に転職する事に成りました。さすがにフランスに近いだけあって日照時間も長く雨も少なめで暮らすには最良の環境と思いました。

仕事の内容は年々増加しつつあった日本メーカーから受託したプロジェクトをイギリス人デザイナー達にクライアント要望を理解してもらい開発を現場でリードするという面白い仕事でした。

感心したのはアメリカ、ドイツ、インドにも支社があり世界中のスタジオ連携で時間的にシームレスなアイデア開発を行えるという方法で、今ではリモートワークで当たり前になったことが当時、始まりだったビデオ会議やインターネットを駆使して実現していた事です。

納期が厳しくても世界中ノンストップで仕事を回せますので時間の制約の中でも生産性が高いやり方でした。

そんな画期的な仕事の回し方を覚えてしまったのでついに自身のコンサルタントを設立する大決心に至りました。

1993 年に独立以来、自身のコンサルタントは収益的には火の車でしたが何とか 17 年間持ちこたえ日本メーカーの多くと欧州メーカー数社にアイデア提案をしたり、モーターショー用のコンセプトカーを製作するという仕事もやっていました。

しかしながら暫くして妻が難病を発症してしまいとてもイギリスの医療では適切なケアが期待できないこと、また 2008 年にリーマンショックが発生した影響で踏ん張ってみたものの会社の存続も困難に

なってしまったので潮時と思い 2011 年にイギリスから撤退することに決めました。

イギリスでの最後の 11 年間はイギリスの保養地としても名高い Cotswold 地方の Bourton on The Water というよくカレンダーにも登場する美しい村に住むことができました。土曜の朝になれば JAL の観光バスが日本人ツアー客を運んでくるのが習いで小



Bourton on The Water

さな村にはイギリス人よりも数の多い日本人に占拠されてしまいます。

せいぜい短時間の滞在で一斉に次の目的に出発してくれるので村の人々には喜ばれていましたね。

それほど快適な生活を経験してしまったので果たして日本ではどこに住むかが大問題で妻の静養という目的もありイギリス並みに夏は涼しく、冬はイギリスより暖かいリゾートを探すことにしました。

私の方はリタイアするには早いので新幹線ですぐ動けるところが候補になりました。

そんな理由で箱根にも近い熱海の山の方に居を定めることになりました。

妻を熱海に置いて私は上海にある米国 GM の開発会社から声がかかり 4 年間単身赴任する事に成りました。仕事は中国人若手デザイナーを育て上げるというコーチみたいな役目です。

さすがに GM ともなると世界大学トップランクの清華大、大学院出身のデザイナーが多く

在籍し個々のポテンシャルの高さには感銘を受けました。

それも自動車デザイン専門コースで即戦力になるべく学習してきた訳で中国政府のデザイナー育成の強い姿勢が感じられました。

翻って日本では昔から大学では掘りこんだ専門教育ができないせいもあり各社独自に社内教育をして企業文化に沿うデザイナーを育成して来ましたがこれは技術伝承的な職人育成には向くものの発想の方法や技術が偏る傾向があり創造的な業種には決して良いとは言えないと思います。

65 歳まで働きましたが、その年の労働許可はとうとう年齢制限の為下りず日本に帰ることになりました。働く意欲はまだあったので自動車開発支援をしている名古屋の企業で週3日間だけ働くことにしました。3年目で終了することになり熱海に戻るとまるでタイミングを合わせたかの様に妻の病状が悪化して私は妻のサポートに回ることになり時間的に制約のある仕事は出来なくなりました。昔、設立した日本法人の事務所の手伝いをはじめ今でも続けていますが、この歳になると残念ながら私が参画できるプロジェクトは限られてきます。

その他に副業で友人と海外で少量生産のスポーツカーを製作するプロジェクトに関わったりと妻が他界した後は家事に振り回されつつ奮闘の毎日です。

振り返ってみれば私は英語を習得することが目的では無かったし、授業料を払って言語を習ったことは留学前の3週間特訓した以外は無かったですが、国を超えて仕事をする上でのパスポートみたいで不可欠なものでした。

幸い自動車のデザインという仕事は世界中どこかのメーカーへ行ってもスタジオは多国籍のスタッフで成り立っていますので英語が標準語になっています。

それに主にスケッチを通してのコミュニケーションなので言葉は大して上手でなくても仕事は出来てしまいます。

私自身もともと外貨に育てられたような人間なので、そのお返しにこれからも国際交流のお役に立てる様なことができればと思っています。

【新会員紹介】



5月に入会させていただきました **加茂野まり子** と申します。

8年前に主人の退職をきっかけに猫5匹（現在は7匹に増えましたが）とともに伊豆高原に移住してまいりました。

昨年、伊東市自然歴史案内人講座を受講したとき、伊東市の歴史や自然が想像以上に面白くて、いずれ海外からの訪問者にも伊東市の魅力を伝えられるようになりたいと思いました。そこで、長い間ブランクのあった英語の勉強を再開し、伊東市内でなにか勉強会のようなものがないかと探したところ、たまたま市内在住の Mr. Paul Hoff というアメリカ人の講演会があり、その主催者が「伊東市善意通訳の会」であることを知りました。活動内容など全く知りませんでしたが、ともかくすぐに入会させて頂いた次第です。

私の英語歴は結構長いです。ハワイ大学で 4 年間学び、その後就職して 64 歳までずっと外資系の会社で仕事をしていました。ですが 10 年前まで何らかの形で英語に触れてきたわりには英語力はそんなにありません。情けないですが事実です。

そんなわけで、昨年から改めて英文法の基礎から初めて、TOEIC 試験（L&R と S&W）にも挑戦し、更に今年は全国通訳案内士試験にも無謀にも挑戦しようと猛勉強中です。

合唱やピアノ、ヨーロッパ押し花などの趣味は、すべてセーブしながら今は家事の合間をぬって受験勉強にあてています。なかなか大変で気力と体力勝負です。

そんなわけで毎日バタバタとしておりますが、皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

【事務局便り】

あいかわらずのコロナ禍の世の中ですが、幸いにも主な活動報告と予定をお知らせできます。

まず、過去 3 年間伊東高校 ALT の Holly Brown さんが伊東を離れることになり、お別れ会を 12 名の会員と熱海高校 ALT の Katie と伊東商業高校の ALT の Ethan の 2 名を加えて開催しました。和やかな雰囲気の中で Holly と ISGG の 3 年間を振り返り、会員一同彼女の貢献に感謝の気持ちを伝え今後の活躍を祈念しました。 又、その時の Katie のアリアは圧巻でした！

又、今後の主な予定としては元伊東の ALT で現在東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構所属

の Monica Barbir さんによる第2回英語講演会です。ぜひお楽しみにしてください。



伊東市善意通訳の会
Ito Systematized Goodwill Guide

第2回英語講演会

伊東市民の皆様へ送る気持ちで
楽しい英語のプレゼンテーション！

講師紹介： Monica Barbir, PhD
東京大学認知科学国際研究機構所属 英語教師助手 (ALT) として3年間伊東高校城崎分校、熱海高校、特別支援伊豆高原分校に勤務 カナダ・トロント出身



講演テーマ
外国語をマスターしよう：
簡単に楽しく

令和4年10月2日(日)
伊東市観光会館3F #1
入場無料
予約(必須)：
090-3308-3220 (ヌシハラ)
会場は定員の50%以下に抑えておりますので
予約のない方のご入場はお断りいたします。

開場： 1時半
開演： 2時
講演時間：約60分
(その後30分程の質疑応答)
英語・日本語でどうぞ
終演： 3時半

母国語は簡単に覚えるのにどうして外国語はむ
つかしいの。外国語を簡単にそして楽しくマス
ターする方法を一緒に学びましょう！

第2回講演会の仮ポスター

【編集後記】

菊池さん、ありがとうございます。一気に我が青春時代に戻された気分です。私の大好きな「南太平洋」
「哀愁」「風と共に去りぬ」それに「大いなる西部」を菊池さんのリストに追加したいです。今の時代
にも、これらの名曲を聴くと、年代を問わずホッとされるのではないのでしょうか？

小西さん、伊東の歌と言われる「みかんの花咲く丘」子供のころ、川田正子さんのあの透き通るような
歌声に多くの日本人が魅了されたものです。が、名曲誕生のきっかけが、「赤飯」だったとは、小西さ

んのお話を読むにつれ、「へえー」「へえー」の連発です。

6, 7 月の新入会員のお二人に「新会員紹介」の原稿をいただきありがとうございました。

山本様からボリュームたっぷりの原稿をいただきましたので、本文に原稿として掲載させていただきました。加茂野様、土曜会にもご出席いただけるのを楽しみにしております。

現在、コロナのため、会の活動が多く制限されておりますが、お二人をお迎えして、ますます元気のいい善意通訳の会にしていきたいですね。

10 月には、伊東市の ALT でもあり、我が会の英語サロンの講師としてお世話になりましたモニカの講演があります。乞う、ご期待！！

伊東市もコロナ感染者の数が多く、心配です。皆様くれぐれもご自愛のほどを！

(H.S.)

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 稲葉 尚子

(事務局) 413-0232

伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄

e-mail : larryn@estate.ocn.ne.jp

<http://itosgg.info/>

(編集委員) 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄